

# CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

Traffic Jam 仮説 :

エンドサイトーシス障害とアルツハイマー病態

アルツハイマー病研究部 病因遺伝子研究室

木村 展之 室長

平成 25 年 2 月 14 日(木) 16 時 00 分～

第 1 研究棟 2 階会議室

アルツハイマー病 (AD) 発症メカニズムの全容は未だ解明されていないが、孤発性・家族性を問わず、AD 患者の神経細胞ではエンドサイトーシスと呼ばれる一連の膜輸送系に障害が見られることが報告されている。そして、神経細胞における  $A\beta$  の産生がアミロイド前駆体蛋白質 (APP) のエンドサイトーシス過程において生じているという研究成果を受けて、両者の関係性に注目が集まるようになった。我々はこれまで、加齢性に AD 病変を再現できるカニクイザルを用いて脳神経系の加齢性変化について検索を行ってきたが、エンドサイトーシス障害もまた加齢によって生じる現象であるということが明らかとなった。そこで本報告会では、主にこれまでの加齢研究によって得た知見をもとに、エンドサイトーシス障害が AD 発症に繋がるのではないかという新しい病態仮説 = Traffic Jam 仮説の可能性と、今後の家族性変異遺伝子をターゲットとした研究展開について紹介したい。